

第17回日本・スペイン・シンポジウム
日西共同議長による最終報告書(骨子)

1. 概要

- (1) 第17回日本・スペイン・シンポジウムは、11月6～7日、サンタンデルにおいて開催された。開会式には、ソラヤ・サエンス・デ・サンタマリア・スペイン副首相及び城内実日本国外務副大臣が列席した。
- (2) 今回のシンポジウムは、“交流年からその先へ”とのスローガンのもとで開催され、日本・スペイン交流400周年を通じて達成された二国間関係を確実にし、交流年の成果を確立させ、関心の高まりを維持し、将来に向けた新たな交流の可能性を見いだすために、交流年のモメンタムを活用する必要性に焦点が当てられた。
- (3) 今回のシンポジウムでは、「平和、成長及びイノベーションのためのパートナーシップ」に沿って、二国間関係における5つの分野(経済・企業、文化、教育、科学技術及び観光)での協力の可能性について戦略的な議論が行われた。2018年の日西友好通商航海条約締結150周年は、こうした将来の目標に適した時間的枠組みを与えている。
- (4) 本シンポジウムでは、スマートシティ分野における協力関係の可能性に焦点が当てられた。

2. 提言

<スマートシティ>

- マラガやサンタンデルのプロジェクトが生み出している企業協力のチャンスを言明し、両国におけるスマートシティの拡大を促す。
- 「マラガ・スマートシティ・プロジェクト」の進展を歓迎し、エネルギー効率等の分野で、日西両国の政府関係機関と民間企業が協力できる取り組みが拡大することを期待。
- このため、NEDOとCDTIとの協力をはじめ既存の連携を一層強化するとともに、これまでお互いに接触のない両国企業間の接触を容易にする環境整備に努める。
- さらなる協力に向けた一歩として、バルセロナの「スマートシティエキスポ世界会議」並びに「京都スマートシティエキスポ」の重要性を強調。
- 日西両国での協力強化が将来的には第三国での普及に発展することを期待。
- サンタンデル市と豊田市との活発な議論及び柏の葉スマートシティの取り組みと今後の戦略にかかる議論が行われたことを歓迎。
- 日西両国の各自治体及び連携する民間企業が取り組んできたスマートシティのモデル・経験・ノウハウ等を相互に共有し合い、お互いの成果を学び合うことの重要性を認識。
- 今後とも両国自治体等による情報や技術の共有を行える環境の整備に努め、将来的にはお互いの強みを活かした革新的な都市間協業プロジェクトの実現の可能性に期待。

<経済・企業間協力>

- 日西両国の貿易・投資の規模は、拡大する余地が大いにあることを認識し、両国の強みを生かした協力と連携をさらに強化。
- 日 EU・EPA が2015年中に交渉完了及び早期締結されることを期待。

- 日本はアジアで、スペインは中南米で、それぞれ相手国に対するゲートウェイの役割を果たすために、両国の強みを活かした協力と連携を強化すべきことを認識。
- 近年、日本企業による対スペイン大型投資案件が増加傾向にあることを強調。
- 日本スペイン交流 400 周年を機会に日西経済合同委員会が再開されたことは素晴らしいニュースであり、二国間経済・貿易関係の活性化手段となることを期待。
- 日西両国が、地域の雇用を創出するような優良投資をもたらす一層魅力的な環境の整備を図るとともに、二国間投資をさらに促進していくことを期待。

<科学・技術>

- 去る 9 月 17 日に第 2 回日西科学技術協力合同委員会が開催されたことを歓迎するとともに、今後も定期的に会合を開催し、具体的な行動計画の作成とその実現を推進。
- 両国における優れた大学間の交流を促進し、優れた科学技術施設等の特定及び集約化を実施。
- 高齢化社会に向けたバイオ医療、ナノ・テクノロジーや革新的医療といった分野での協力を推進。
- (独)日本科学技術振興機構(JST)と当時の科学・イノベーション省(MICINN)との間の 2008 年の合意に沿って、両国における共同プロジェクトの数を拡大。
- ナノ・テクノロジーや新素材、核融合、再生可能エネルギー、スマートシティ、養殖技術、バイオ技術など、二国間協力を既に進めている分野についても、連携を強化。
- 両国の研究者コミュニティ及び科学システムの関係強化に向けた前向きな取組として、日本におけるスペイン人科学者協会の設立を歓迎。

<観光>

- 二国間関係の観光促進を評価し、両国間の直行便の開設が、日西間の観光ポテンシャルに著しく貢献することを認識。
- 対日スペイン人観光客の増加を促進することがポジティブに働き、両国における訪問観光客数の不均衡が是正されることを期待。
- スペインにおける日本人観光客数は年々増えており、ポテンシャルのある分野を模索しつつ、日本語でのサービスを拡大しながら、日本人のニーズに見合った多様な観光の提供を図る取り組みを継続する必要性を認識。
- 両国の観光庁による覚書の交渉を歓迎し、早期の締結に期待。

<教育>

- 専門家の育成は、両国社会のつながりを強化する際に絶大な効果を発揮することを強調。
- プロの教師及び専門家の数を拡充する必要性について認識。さらには、日本の機関におけるインターンシップ・プログラムの促進の重要性を認識。
- また、2013年11月にサラマンカ大学で行われた日西大学学長会議等のイニシアティブを評価する。このような交流の場は、これまで各大学レベルで行われてきた学術交流の成果及び課題の共有ができるため、有意義。
- 両国の大学や研究機関の間で協定の締結による専門家等の交流を増加させることは、双方の学術界の緊密化に繋がる。また、両国間のワーキング・ホリデー制度の早期合意を求める。
- 各国における言語教育を推進する際に、両国の教育機関における若者世代への支援、また中

等教育での教師及び生徒の交換留学プログラムの充実を期待。

<文化>

- 文化の促進に責任を有する機関は受け入れ社会の多様な受益者に多様かつ適切な形で文化を提供し、また、革新的な文化事業の実施及びポップ・カルチャーへの重点化を行いつつ、文化機関との連携強化を期待。
- 活動の広報及び大衆との相互交流を深化させるため、新しい技術やソーシャル・ネットワークが提供する新たな機会を最大限活用することを期待。
- 日本でのセルバンテス協会の活動及びスペインでの国際交流基金の活動を高く評価しつつ、国際交流基金マドリッド日本文化センターの独自の事務所開設に向けた日本政府の対応に期待。

<議員外交>

- 両国議員団の訪問を通じて日西議会間交流が盛んになっていることを非常に高く評価。
- 本年4月にスペイン側で、スペイン日本友好議員連盟が再結成されたことを歓迎。日本側の日本スペイン友好議員連盟と連携して、両国議会の協力を図った有力な振興手段。

(了)